

品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。



財団法人 建材試験センター
中央試験所長 黒木 勝中
埼玉県草加市稲荷5丁目2番20号



試験名称	木造建築用接合金物を使用した接合部のせん断試験
依頼者	会社名：株式会社 カナイ 所在地：埼玉県八潮市西袋717-1
試験体 (依頼者 提出資料)	<p>1. 接合金物 名称：木造建築用土台一大引き仕口金物 商品名：ビス止め大引き梁受け金物 用途：土台一大引きの仕口に使用する金物（1仕口に1組使用） 寸法：132.3×191.6×142.3mm 板厚2.3mm（図-2参照）</p> <p>2. 接合具 木ねじ：φ6.0×45mm, 28本使用 （金物1組あたり，土台側10本，大引き側4本使用，図-2参照）</p> <p>3. 軸組 大引き：樹種；べいまつ，寸法；105×150mm 土台：樹種；すぎ，寸法；105×105mm</p> <p>4. 試験体数 7体（うち1体予備試験体）</p> <p>参 照：図-1及び図-2（試験体の形状・寸法）</p>
試験方法	木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年度版）（企画編集・発行：財団法人日本住宅・木材技術センター）の6章「試験方法と評価方法」に従って行った。試験方法を図-3に示す。
試験結果	<p>短期基準せん断耐力（Pos）：10.4kN</p> <p>耐力算定基礎資料：表-1 荷重-変位曲線：図-4及び図-5 破壊状況：写真-1～写真-6</p>
試験期間	平成23年 2月 1日
担当者	<p>構造グループ 統括リーダー 高橋 仁 試験責任者 伊藤 嘉則 試験実施者 小山 博由 上 山 耕 平</p>
試験場所	中央試験所

試験番号：IIJ-10-0065

受付日：平成23年 1月31日

報告日：平成23年 3月 4日

木造接合金物の強度試験
[ビス止め大引き梁受け金物
105×150/せん断試験]
報 告 書

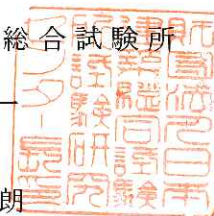
試験結果は、本報告のとおりであることを証明します。

財団法人 日本建築総合試験所

試験研究センター

センター長

工学博士 井上 一朗



技術管理者

構造要素試験室長

完山 利行



試験名称	木造接合金物の強度試験 [ビス止め大引き梁受け金物 105×150/せん断試験]	
依頼者 (所在地)	株式会社 カナイ (埼玉県八潮市西袋 717-1)	
試験実施日	平成 23 年 2 月 2 日	
試験 体	形状・寸法	図-1.1
	接合金物	ビス止め大引き梁受け金物 【材質：SGHC Z27 (JIS G 3302), 形状・寸法：図-1.2-1】
	接合具	3#角ビット鍋スクリュー φ6.0×45mm (接合金物-支持梁：10本, 接合金物-大引き：4本) 【SWCH22A (JIS G 3507-2), 形状・寸法：図-1.2-2】
	木材の 樹種等	支持梁：すぎ製材 (JAS 針葉樹構造用製材乙種 1 級) 加力梁：べいまつ製材 (JAS 針葉樹構造用製材, E110 以上)
	試験体数	7 体 (うち 1 体は予備試験)
	備考	1. 試験体構成部材の諸元を表-1 に示す。 2. 試験体の加工および組立は依頼者により行われた。 3. 上記の図表は依頼者提出資料による。
試験 方法	準拠基準	「木造軸組工法住宅の許容応力度設計 (2008 年版)、第 6 章 試験方法と評価方法、pp.561~592」 ((財) 日本住宅・木造技術センター) に準じて行った。
	試験装置	図-2
	荷重方法	予備試験は単調荷重、本試験は一方向の繰返し荷重とした。 繰返し荷重は、予備荷重試験で得られた降伏変位 δ_y の 1/2, 1, 2, 4, 6, 8, 12, 16 倍の順で各 1 回行うこととした。
	試験体の 設置方法	支持梁と鋼製土台を M16 全ねじボルトを用いて鋼製スペーサー (□-120×120×t25mm) を介して固定した。なお、M16 全ねじボルトは、トルクレンチを用いて、40N・m 程度で締め付けた。
	測定機器	荷重値の検出には、50kN ロードセルを用い、試験体各部の変位量の測定は、図-2 に示す位置に設置した変位計を用いた。
試験結果	<ul style="list-style-type: none"> ・試験結果の一覧 ----- 表-2 ・P-δ 曲線の包絡線 (試験体相互の比較) ----- 図-3 上記試験結果中に示した記号の定義を [付録 1] に示す。	
	短期基準耐力 (P_0) : 9.1kN (金物 1 個当たりの耐力) 短期基準耐力の算定方法を [付録 2] に示す。	
構造部 構造要素試験室 試験責任者 今西 達也 試験担当者 友清 繁		